

石川県立穴水高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評 価 の 観 点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判 定 基 準 | 備 考 |
|------|--|--------------------------|--|---|--|----------------------------|--------------------------------------|
| 1 | 生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。 | [進路指導課] [各教科] | 自らの進路について考え、実現に向けて主体的に努力しようとする意識や向上心が不足している。模擬試験や検定試験・資格試験等で各自の進路志望や学力に応じた目標を設定させ、達成に向けた支援をとおしてキャリア意識の向上を促すことが必要である。 | 【成果指標】 生徒各自が目標を達成できた。 アドバンスクラス 模試偏差値 ベーシッククラス 漢字検定 キャリアコース 商業検定 | 模試における英数国合計の偏差値が55以上の生徒が受験者の A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 漢字検定準二級保持者の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 商業各種検定合格率が A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満 | 判定がC Dの場合は改善策を検討する。 | 模試・検定試験等の計画の周知、補習、検定合格者の校内掲示による意識高揚等 |
| | ②習熟度(類型)別の授業・補習や学習課題等をとおして、自らの学ぶ意欲を高める。 | [教務課] [各学年] [各教科] | 家庭学習の習慣が定着していない。個に応じた適切な課題設定をとおして、自ら進んで学ぼうとする学習意欲の喚起が必要である。 | 【成果指数】 各クラスの1日の学習平均時間(各定期考査までの期間)が アドバンスクラス 2時間以上 ベーシッククラス 1時間30分以上 キャリアコース 1時間30分以上 | 各クラス(コース)において基準を達成した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C、Dの場合は改善策を検討する | 学習時間調査 |
| | ③教育ICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、確かな学力を養成する。 | [ICT関連GIGAスタッフ] [各教科] | 「GIGAスクール構想」に合った「新たな授業づくり」に着手し、個別最適化と協働的な学びが一体充実した授業のあり方について模索、試行していかなければならない。 | 【努力指標】 ICT研修によってICT機器に習熟し、「GIGAスクール構想」に合った「新たな授業づくり」に積極的に取り組んだ。 | ICT機器に習熟し、「GIGAスクール構想」に合った授業づくりに積極的に取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C、Dの場合は校内研修を実施する等改善策を検討する。 | 年2回職員にアンケートを実施 |

石川県立穴水高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評 価 の 観 点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判 定 基 準 | 備 考 |
|------|---|---------|---|--|---|------------------------|---------------------------------|
| 2 | 規範意識と協調性を高め、自他を思いやる心を醸成する。 | [生徒指導課] | 身なり・挨拶等に関しては、地域から一定の評価を得ている。地域の一員であることを自覚し、生徒が自発的に判断・行動できることが大切である。 | 【満足度指標】 規範意識を持って、自発的に行動することができたと考えている。 | 自分から主体的にTPOに応じた挨拶ができていますか A よく出来ている B 出来ている C あまり出来ていない D 出来ていない | A+Bが70%未満の場合は改善策を検討する。 | 生徒へのアンケート |
| | ②学校行事や課外活動をとおして、多様性を尊重しながら協働できる姿勢を養成する。 | [生徒指導課] | 生徒の89%以上が同じ中学校出身である。良好な人間関係を築き上げるとともに、生徒相互に多様性を尊重し、協働する意識の涵養が必要である。 | 【満足度指標】 各種学校行事や体験活動により、良好な人間関係を築き上げるとともに、何事も主体的に他者理解をとおして取り組むことができるようになる。 | 学校行事をとおして、自他を大切にしている心を持てるようになったか A よく持てるようになった B 持てるようになった C あまり持てない D 持てない | A+Bが70%未満の場合は改善策を検討する、 | いじめアンケートや面談による生徒情報の共有と生徒指導通信の発行 |

石川県立穴水高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評 価 の 観 点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判 定 基 準 | 備 考 |
|--------------------------------------|--|-----------------------|--|--|---|------------------|-------------------------|
| 3 地域との交流・連携を密にし、地域を理解し貢献しようとする姿勢を養う。 | ①地域資源(自然・人材・団体・企業)や他校種と連携し、地域理解を深め、探究する力を養成する。 | [総探コーディネーター] [各学年] | 講演会や現地調査等で、地域の自然・産業・文化について知る機会を多く設定している。探究の時間をとおして、生徒各自が主体的に地域の課題解決学習に取り組み、地域理解を深める活動が必要である。 | 【満足度指標】 生徒が課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めている。 | 課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができたと考えられる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C、Dの場合は改善策を検討する。 | 生徒へのアンケート |
| | ②地域ボランティア等へ積極的に参加し、地域貢献意識を高め、課題解決力を養成する。 | [生徒指導課] [総務課] | 地域ボランティア活動や地域イベント等に多数の生徒が参加している。より多くの生徒が、地域の課題に向き合い、地域貢献意識を高めることが必要である。 | 【満足度指標】 生徒がボランティア活動や地域行事に関わり、地域の活性化に貢献していると感じている。 | ボランティアや地域行事に関わり、自己の活動に有用感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C、Dの場合は改善策を検討する。 | 生徒へのアンケート |
| | ③ホームページ等で、教育活動や生徒の様子を積極的に情報発信する。 | [総務課] | ホームページへのアクセス数が年々増加している。閲覧者の視点で内容を工夫してホームページの充実を図るとともに、積極的な発信に努める。 | 【満足度指標】 ホームページや学校だより等をとおして、適切に学校情報や教育活動の様子が発信されている。 | 学校情報や教育活動の様子を知ることができる情報発信が、適切になされていると感じている保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C、Dの場合は改善策を検討する。 | 保護者へのアンケート(年2回の学級懇談会時に) |

石川県立穴水高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評 価 の 観 点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判 定 基 準 | 備 考 |
|------------------------------------|--|--|---|---|---|----------------|--------------------|
| 4 学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実を図る。 | ①授業改善と資質向上に主体的に取り組むとともに、組織的思考力や組織的行動力を高める。 | [全職員] | 組織の若返りが進み、授業の質の継続が課題となっている。教員が相互に課題意識をもって授業の質向上に努める機会を設けることが必要である。 | 【努力指標】 年4回の互見授業ウィークを設定し、それぞれ2回以上参観することとし、本校の授業の質向上を図る | 互見授業ウィーク中2回以上参加した職員の延べ割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | Dの場合は改善策を検討する。 | 互見授業評価票の提出数から算出 |
| | | [若手教員早期育成プログラムコーディネーター] | 本校の若手教員が占める割合は、教諭全体の約40%である。本校は小規模校であるため、若手教員に学習指導力だけでなく業務において即戦力となる力の育成が求められている。 | 【成果指標】 年間研修計画に即して研修を実施する。各期の若手が確実に力付けると共に若手教員が講師を行う場面を設定する。 | 校内研修の実施回数(互見授業研究・講師役も含む)が A 25回以上 B 20回以上 C 15回以上 D 15回未満 | 年間計画の実施状況で判定 | 若手教員早期育成プログラム研修も含む |
| | ②業務改善の意識を持ち、効率的・効果的に業務を実践する。 | [全職員] | 学校業務は多岐にわたるため、多忙化解消には、職員の業務分担と協力連携体制を整備して、ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方が必要である。 | 【成果指標】 各種業務の精選や重点化等を意識し、組織として効率よく効果的に業務に取り組んでいる。 | 教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年より A 5%以上減少した B 3%以上減少した C 1%以上減少した D 減少できなかった | Dの場合は改善策を検討する。 | 勤務時間記録表より調査 |
| ③危機管理意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織を構築する。 | [全職員] | 災害や事故、感染症対策やいじめの把握や未然防止等、安心・安全を脅かす事態に対し、迅速で適切な組織的対応が求められている。 | 【努力指標】 想定される危機や生徒問題に備えた対応や対策かできるよう、効果的な校内研修が行われている。 | 研修会により、具体的な危機や生徒問題への対応の仕方が把握できたと考える教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | C、Dの場合は改善策を検討する。 | 教員へのアンケート | |

